

令和7年度 第3回 富塚小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月27日（木）14時00分～15時25分
- 2 開催場所 富塚小学校 会議室
- 3 出席委員 久保田 智彦、萩原 孝英、マイヤーズ ツヨシ、鈴木 佐知、甲斐 進一
平出 裕美子、鈴木 敦子
- 4 欠席委員 吉原 忍、鈴木 秀俊
- 5 オブザーバー 小楠 佳子（地域代表）
- 6 学 校 村松 一彦（校長）、古宮 康子（教頭）、池内 伸彰（教務主任）
新田 久美子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（学校・地域連携課）
- 8 傍聴者 1人
- 9 会議録作成者 CSディレクター 新田 久美子
- 10 議長の選出 司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、甲斐委員が本日の議長を務める
ことを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 全国学力・学習状況調査から
- (2) 学校評価アンケートについて
- (3) 学校の抱える課題と改善策・支援策について

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が
成立している旨の報告があった。

(1) 全国学力・学習状況調査から

議長の指示により、教務主任からプレゼンテーション資料に基づき全国学力・学習状況調査の結果について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・コミュニティ・スクールのどのような活動が、よいアンケート結果につながったのか。この学校のコミュニティ・スクールの特長は何か。（萩原委員）
→一番は地域の方が教育活動に積極的に参加してくださるところだと思う。この地域には協力的な方が多い。家庭科の裁縫の支援や、生活科の校外活動の付き添い、クラブ活動の講師など、さまざまな活動をしてくださっている。（校長）
- ・何をやったからよい結果が出たというよりも、協力体制ができているということが大事。地域のみなさんが一緒になってやることがすばらしいと思った。（萩原委員）

- ・アンケート結果を見ると、クラスの仲間とのつながりが足りないと感じている子供が、全国平均に比べて多いというのが気になった。学校としてはこれにはどのように対応していくべきよいと考えているのか。（久保田委員）
→学級や学年独自のイベントを通して子供たちの関係をよくしていくこと、またピア・サポートの活動の中で子供たちなりに問題を解決する能力をつけていくことが、子供たちの仲をよくしていくと考えているので、これからも継続していきたい。（校長）
- ・午前中に見せてもらった学習発表会は、みんなで協力して統制も取れておりすばらしいと思ったのでこの結果が気になったが、そんなに心配することでもないのかもしれない。（久保田委員）

（2）学校評価アンケートについて

議長の指示により、教務主任から学校評価アンケートの質問項目について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・「友達と協力して進んで活動することができた」という項目があるが、「協力して」と「進んで」はどちらが大事なのか。どちらに重点を置いているのか。（萩原委員）
→協力よりも自分で決めることが、つまり主体性の方を重視している。ひとりでやるのか、友達とやるのか、先生とやるのかを自分で考えて決定し、それに合った方法で進めていくということを大事にしている。（校長）
- ・目標を決めて体力づくりに励むことができたかという項目があるが、この体力づくりの目標は具体的にはどの時間のどの活動に対して決めているのか。（平出委員）
→体育の授業で「ふりかえりカード」というものがある。目標を設定してそれに向かって努力し、その結果どうなったかを記入するようになっている。その他にも、教室の背面に学期ごとに決めた自分のめあてを書いたものを掲示しており、月末に評価することになっている。このめあてに体力面の目標を設定している場合もある。（校長）
- ・学校や先生は相談にのってくれるかという項目があるが、子供たちは家族や友達、担任の先生には言えないこともあると思う。その時に他の人に相談できる機会はあるか。（マイヤーズ委員）
→養護教諭や出入りの先生に相談する子もあり、学校全体で対応している。希望すればカウンセラーに相談することもできる。（校長）
- ・自分が高校生の頃には保健室が駆け込み寺のような形になっていたが、小学校ではそのような場所はあるのか。（萩原委員）
→やはり保健室が一番。保健室に養護教諭がいるのでそこで相談するということはある。またこの学校は担任に相談する子も多い。子供によっては放課後担任と話す機会を設定する場合もある。（校長）
- ・相談に乗ってくれる人がいるのはとても大事なこと。それが分かれば子供たちは安心して学校に来られると思う。（久保田委員）

- ・いじめの相談はあるか。（久保田委員）
→いじめについては別で毎学期1回アンケートを取っている。書いた子がいれば複数の教員で聞き取りをして対応するようにしている。（校長）
- ・いじめが多く発生するタイミングはあるか。（萩原委員）
→これというタイミングはない。不登校については長期の休み明けに多く発生するということはある。（校長）

（3）学校の抱える課題と改善策・支援策について

議長の指示により、教頭から本校の抱える課題について説明があった。

●ロング昼休みの見守りボランティアについて

前回の協議会でロング昼休みの見守りについて熟議したが、時間の関係で途中になってしまったので、ボランティアの取りまとめや募集のしかたなどについて引き続き御意見をいただきたい。

委員からは以下の発言があった。

- ・ボランティアの対象者は保護者や地域の方になると思うが、夏の暑さが心配。普段ボランティアの募集をすると保護者の参加は少ない。地域の方に多く来てもらうことになるので暑さが気になる。ロング昼休みの12時30分から13時20分は一番暑い時間だと思う。また、雨天や暑いときなど中止の連絡はどのようにするのかなど細かいことが気になるが、その辺りはどうするのか。（鈴木敦子委員）
→当番制でやっていけばよいのではないか。暑くて中止になるのであればその人たちに連絡すればよい。漠然と募集するのでは難しい。この日は自治会にお願いしますと決められれば、自治会で行ける人を調整するという方法ができるかと思う。（久保田委員）
- ・パパボランティアはどうか。（鈴木敦子委員）
→募集することはできるが、みなさん仕事があるので毎週何曜日に必ず来られるという方はあまりいない。土日休みの方が多いので平日は難しいかもしれない。（甲斐委員）
- ・以前読み聞かせボランティアをやっていたとき、登録してくれる人は多いが実際に活動できる方は少ないと感じた。昼休みの短い時間に行くというのは有休を取るほどでもなく難しいところがある。やってあげたい気持ちはあるが、時間の調整が難しい。（鈴木佐知委員）
- ・シニアパワーを使うとよい。若いお父さんやお母さんたちは仕事をしている人が多いので難しいと思う。（萩原委員）
- ・地域で参加できる人に来てもらうと考えるのがよい。仕事をしている人に休みを取ってもらうようなことではない。見守りをやりましょうと募集をかけて集まった人で始めてみるとよいのではないか。（久保田委員）
- ・夏場の暑いときは人を指定するなどの対応をすればよいと思う。4～5人が理想だが、2人や3人ずつからでもよいので始めたい。（鈴木敦子委員）
- ・自治会やパパボラと連携を取りながら進めていくとよいと思う。（甲斐委員）

オブザーバーからは以下の発言があった。

先週日曜日に協働センターまつりが行われた。インフルエンザが流行しており不安もあったが、たくさんの人々が来てくださった。昔から知っている、今は大学生になっている子に声をかけると友達を連れてボランティアに来てくれた。昔から知っている子たちが今も地域のためと手伝ってくれたことがとてもうれしかった。地域で子供を育てることができていると感じた。

地域の方は小学校が何かやろうと声をかけられれば動いてくださるので、元民生委員さんなどを中心に理解してくれる方を活用していけばよいと思う。（小楠さん）

報告

学校支援コーディネーターより、2学期の活動報告があった。

- ・9月、10月に5、6年生の家庭科の支援ボランティアを募集して実施した。
- ・1、2、3年生の校外学習の見守りボランティアを募集して実施した。
- ・10月31日に保護者や地域のみなさんと一緒に花壇づくりを行った。
- ・11月6日に4、5年生でお琴の先生をお招きして、お琴の鑑賞会を行った。
- ・11月4日と28日に地域や保護者の方を講師としてお招きして、15のクラブ活動を実施する。
- ・12月に5年生のボランティア児童と一緒に花壇づくりを行う。
- ・12月15日につくし学級で、地域の方を講師としてお招きして、秋に収穫したさつまいもを使った調理実習を行う。

その他の報告事項

司会から、次回会議は、令和8年1月30日（金）14時00分から富塚小学校会議室で開催する旨の報告があった。